

令和３年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

子どもたちとともに「こころ」と「からだ」を育む学校
1. 支援教育の専門性や指導技術を向上し、児童・生徒を一人ひとり大事にし、“生きる力”をしっかりと伸ばす学校
2. 児童・生徒が共生社会へ出て、自立的にたくましく生きていくため、保護者、関係諸機関と連携し、支援ネットワークが構築できる学校
3. 児童・生徒が安全安心に通い、楽しく過ごせる学校

2 中期的目標

1 支援教育における専門性及び指導技術の向上 (1) 個別の教育支援計画のブラッシュアップにより、一人ひとりの生徒への支援を充実する。 個別の教育支援計画のマニュアルを作成し、個別教育支援計画をさらに活用する。 ※ 保護者向け学校教育自己診断において、(a)『個別の教育支援計画』にもとづいた支援を行っている」および(b)『個別の指導計画』にもとづいた指導・支援を行っている」の2項目の肯定率について、常に95%以上をめざす。[R3 95%、R4 95%、R5 95%] H30 (a: 100%、b: 100%)、R1 (a: 93%、b: 94%) R2 (a: 93%、b: 92%) (2) 授業の質の向上と平準化を図り、新しい授業スタイルを構築する。 授業力向上PTを立上げ、授業力の質の向上に向けた具体的取組みを検討する。 コンテンツの共有化や研究授業・事例研究などにより、ICT機器をさらに活用する。 ※ 生徒向け学校教育自己診断において、「授業は理解しやすい」の肯定率が80%以上となることをめざす。[R3 78%、R4 80%、R5 85%] H30 (69%)、R1 (79%)、R2 (76%) ※ 教員向け学校教育自己診断において、「ICT機器を積極的に活用している」の肯定率が85%以上となることをめざす。[R3 80%、R4 85%、R5 85%] H30 (84%)、R1 (70%)、R2 (67%)
2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現 (1) 卒業後の自立と社会参加に向けて、小中高3学部で一貫したキャリア教育を推進する。 また、H31年度学校経営推進費事業で整備した「八尾アスレチックフィールド」のメンテナンスの取組みを通して、小中学部の児童生徒にも「働くこと」のイメージが持てるようにする。 ※ 令和3年度に全校で「キャリア教育推進委員会」を立上げ、組織的・系統的なキャリア教育の方向性を明確にする。 令和4年度に、地域と連携したキャリアサポートプログラムを実施する。 (2) 高等部教員のキャリア教育・就労支援に関する実践力を強化し、就労を支援する。 ※ 上記(1)(2)に関する取組みにより、企業就労を希望する生徒の就労率を100%、かつフロンティアコースの卒業生徒数と同数の就労を目標とする。 (H30 企業就労5人／コース生徒5人、R1 4人／6人、R2 3人／6人) ※ 毎年、卒業までに高等部3年生全員の進路が決定するように支援する。 (3) 生徒が地域への関わりを深める活動や、余暇活動・健康維持につながる取組みを推進する。 ※ 校内外でのボランティア活動の実施、課外クラブの活性化、キャリアサポートプログラムでの地域とのつながり、などに継続して取り組む。
3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り (1) 個々の教職員が常に生徒の安全・安心をしっかりと守れるよう、情報共有しながら連携していく体制を構築する。 ※ 新型コロナウイルス感染症を含め、あらゆる危機管理事案に対し対応できる組織となっているかを見直す。 (2) 偏見や差別を許さない、人権が尊重された教育を推進する。 (3) 会議や業務を効率化し、教員が生徒に直接的に関わる時間を増やす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 3年 10月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【(高等部) 生徒向け自己診断の結果・分析】提出率 72% 10項目中6項目において昨年度よりも肯定的意見が5%以上上昇した。特に「学校へ行くのが楽しいですか。」が78%から93%、「学校では友だちの大切さや社会のルールについて学ぶことができますか。」が75%から85%、「先生は困っているとき、助けてくれますか。」が76%から87%と10%以上も上昇した。昨年度は新型コロナウイルスの影響で学校での活動が制限されていたが、今年度は少しずつ活動が再開され規律を守りながら充実した学校生活を送っていると考えられる。一方、「卒業後の進路のことで分からないことがあれば、先生は教えてくださいませんか。」は昨年度が69%、今年度が64%と2年連続して達成基準(肯定的意見70%)に到達していない。進路指導において保護者へは施設見学会や進路説明会において十分な情報提供を行っているが、生徒への周知が徹底できていない、もしくは生徒のニーズに合った情報提供ができていないと考えられる。	第1回(7月 書面開催) <主な内容> ・八尾支援学校 学校運営協議会 規約(説明) ・令和3年度 学校運営協議会 会長・副会長の選出 ・令和3年度 学校経営計画(報告) <主な意見> ・新たに作り出すものと既存のものをどちらも活用するという視点が大切である。 ・卒業後の進路について、コロナ禍において厳しい状況にあると思うが、学校として工夫や努力をいただいていることに感謝する。 ・「余暇を楽しむ能力」の重視は今更ながら大変、大切な視点であると考える。 ・就労の目標値が示されているが、就職後の定着が大事になってきている。 第2回(12月1日) <主な内容> ・2学期授業アンケート結果について

府立八尾支援学校（高等部）

【(全学部) 保護者向け自己診断の結果・分析】提出率 84% 28 項目中 27 項目において肯定的意見が 70%を超え達成基準を満たした。「生徒についての保護者の悩みや相談に適切に応じている。」は 86%から 94%へ 8 %上昇し、丁寧な保護者対応を行っていることがうかがえる。一方で「近隣の高等学校との交流の機会を設けている。」は昨年度 60%、今年度 50%と 2 年連続して達成基準（肯定的意見 70%）に到達していない。新型コロナウイルスの影響で山本高校との交流の機会が減少した影響もあるが、交流校自体が数年前の最盛期より減少しており、今後改善の余地があると考えられる。 【(全学部) 教職員向け自己診断の結果・分析】提出率 99% 34～54 番までの 21 項目では、「施設・設備」「学校予算」「PTA 活動」「生徒会活動」「校内支援体制」「校内研修」「キャリア教育」「教材・教具の利用」「学校行事」の 9 項目が 70%に達しなかった。「施設・設備」については長年の課題であるが、プレハブ校舎の建て替えなど即対応できないことも多々あるため、急な改善は困難であると考えられる。「教材・教具の利用」については、支援教育部を中心に授業アーカイブや教材バンクを充実させているが、研修等での活用方法に課題があると考えられる。周知徹底に努めていきたい。「生徒会活動」はコロナ禍においてこれまで行われてきた他校との交流が制限されたことが影響していると考えられる。来年度は対面で実施できるよう調整していきたい。	・授業見学 <授業見学の感想> ・中学部、高等部と学部が上がるごとに、集中して取り組んでいるように感じた。 ・教員の生徒への声かけは、「〇〇ができてよかった」など具体的に言語化してほしい。 ・社会に出ると立ち仕事も多いので、作業台などの環境も整えてほしい。 <主な意見> ・授業参観に来られていない保護者の意見も集約できるようにする必要がある。 ・教科書の選定では検定教科書も選定されており、多様化していると感じた。 ・授業の中で ICT を使った振り返りの場面があり、良い取り組みだと感じた。 ・子どもたちが主体的に学ぶために、手順書を示すなどの工夫があると良い。 第 3 回（2 月 書面開催） <主な内容> ・令和 3 年度学校教育自己診断について（報告） ・令和 3 年度学校経営計画の評価（報告） ・令和 4 年度学校経営計画（案）（報告） <主な意見> ・コロナ禍においても、一貫したキャリア教育、及び就労支援の充実を図れたことは、生徒や保護者にとっても心強いことだったと思う。 ・就業・生活支援センターとして、説明会や卒業後の引継ぎだけでなく、在学中から連携できることはないかと考える。 ・高等部 3 年生フロンティアコースの生徒による企業実習の報告会は、良い取り組みだと思う。 ・就労に向けての教育の中に、就労後の定着を考えての教育指導にも力を向けて頂きたい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 2 年度値]	自己評価
1 支援教育における専門性及び指導技術の向上	(1)生徒への支援充実	(1)	(1)	
	ア 個別の教育支援計画をさらなる活用	ア ・個別の教育支援計画や指導計画の活用マニュアルを作成し、生徒一人ひとりの障がい特性や教育的ニーズに応じた学習内容・指導・支援の方針を明確化する。	ア ・各計画とシラバスを活用した実践を記録できる書式を作成し、好事例を部内で共有する。 ・保護者向け学校教育自己診断結果における： a)「個別の教育支援計画の活用」 b)「個別の指導計画の活用」の肯定率 90%以上を維持する。 a) [93%] b) [92%]	ア ・「授業の反省とまとめ」を改訂し、授業の振り返りとシラバス運用の反省を 1 つの様式にまとめた「学習のまとめ」(新様式)を新たに作成したことにより、好事例を部内で共有することができた。【○】 ・保護者向け学校教育自己診断結果における： a)「個別の教育支援計画の活用」 b)「個別の指導計画の活用」の肯定率 a)b)94% 【○】
	(2)授業の質の向上	(2)	(2)	
	ア 授業力向上 PT の立ち上げ	ア ・授業力向上 PT を立ち上げ、高等部での課題を把握し、今後の取組みの方向性を明確にする。	ア ・R 3 年 9 月末までに、今後の取組みに関する提案書を PT が提出する。	ア ・支援教育部員が PT のメンバーとなり授業アーカイブ、教材バンクを充実させた。授業アーカイブは初任者研修で活用することができた。【○】
	イ ICT 機器の活用	イ ・ICT 活用をテーマにした研究授業を実施する。 ・他校事例を研究し、校内で活用する。	イ ・研究授業を年間 2 回実施する。 ・ICT 関連の研究会や他校の公開授業を合わせて 5 回以上見学し、報告会や実践例報告会を随時開催する。	イ ・9 月 10 日と 12 月 22 日の 2 回、プログラミング教材やプログラミングアプリを活用した研究授業を実施した。【○】 ・ICT 機器の展示会に参加し資料を作成して全校教職員と情報共有を行った。また、7 月に他校から情報担当の教員を講師に招いて 6 講座の研修を実施し、他校の実践例を共有することができた。【○】

府立八尾支援学校（高等部）

2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの 充実による自立や社会参加の実現	(1)一貫したキャリア教育を推進 ア キャリア教育推進委員会の立ち上げ	(1) ア ・キャリア教育推進委員会を立ち上げ、それをコアにしてワーキンググループで中期的なキャリア教育の取組みを検討する。	(1) ア ・「キャリア教育発達段階表を基にした評価基準」の活用案を立案する。 ・高等部の教育課程全体を見直しR4年度から実施する準備を完了する。 ・保護者向け学校教育自己診断結果における「キャリア教育を行っている」の肯定率 90%以上を維持する [90%]	ア ・個別に作成した「キャリア教育発達段階表を基にした評価基準」を「個別の教育支援計画」を作成する際や授業においてキャリア教育の視点を入れる際に有効活用できるよう、冊子にして閲覧可能な状態で保管している。 【○】 ・フロンティアコースにおいては、生活実践の時間を4時間から5時間に、情報の時間を2週間に1時間から1週間に1時間に増加するなど、今年度より先行実施している。また職業コース以外も職業の時間を4時間から6時間に増加し、就労に向けた取組みを充実させている。来年度はフロンティアコースにおいて2・3年生合同で生活実践の授業を実施できるよう準備を進めている。 【○】 ・保護者向け学校教育自己診断結果における「キャリア教育を行っている」の肯定率[86%] 【△】
	イ 小中高3学部の連携によるキャリアサポートプログラムの実施	イ ・小中高全学部の連携によるキャリアサポートプログラムを企画し、実施する。 ・高等部の生徒が中心となって、小中学部の児童生徒に「働くこと」のイメージが持てるような取組みをする。	イ ・前年度からステップアップして、小学部および中学部と連携した具体的なプログラムを実施する。 ・八尾アスレチックフィールド【H31年度学校経営推進費事業】のメンテナスを年間5回以上、小中学部の清掃活動を年間5回以上実施する。 ・中学部生徒を対象に、高等部の生徒による企業実習体験の報告会を実施する。	イ ・3学期に商品販売を対面方式で実施する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止となったため、1年間の取組みを書面にまとめて保護者に情報提供することにより成果の発表を行った。【○】 ・フロンティアコース生による八尾アスレチックフィールドのメンテナスを1年生2回、2年生1回、3年生2回、実施した。高圧洗浄機を使用するなど内容も充実させることができた。教室のエアコンフィルターのメンテナンスなど小中学部の教室や施設の清掃活動を2学期に3回、3学期に2回実施した。【○】 ・ポスター制作を中学部に依頼する際、高等部2年生の生徒が出前授業を行った。 【○】 ・2月に中学部生徒を対象に、高等部3年生フロンティアコース生による企業実習の報告会を実施した。 【○】

府立八尾支援学校（高等部）

	(2)キャリア教育・就労支援に関する実践力を強化 ア 進路指導に関する知識向上と指導力強化	(2) ア ・進路指導に関する知識向上と指導力強化のため、研修やワークショップを開催する。	(2) ア ・高等部教員に対する進路指導研修を3回以上、施設・企業見学会を5回以上開催する。 [3回、5回]	ア ・7月に「小中高連携したキャリア教育の在り方について」、9月に「高等部卒業後の進路先」、1月に「利用者の自立を促す関わり方」のテーマで3回全校向けの研修を実施し、7月に高等部教員向けに「ビジネスマナー」の研修を実施した。施設・企業見学会は8月に5回実施予定であったが、緊急事態宣言が発令されたため3回の実施にとどまったが、11月に保護者向け施設見学会を5施設で実施し、教員を複数名同行させることにより未実施分を補うことができた。 【○】
	イ 就労マッチングの機会を充実 ウ 進路先の選択肢増加	イ ・就労マッチングの機会を増やすため、実習先を新規開拓する。 ウ ・企業、障がい者就業・支援センターや福祉関連施設との連携を強化する。	イ ・実習先を10社新規開拓する。 [10社] ・企業就労人数 5人 [3人] ウ ・3年生全員の進路が決定する。 ・フロンティアコース生以外でも就労や実習を受け入れ可能な企業を1社以上開拓する。	イ ・新たに15箇所の実習先を新規開拓した。 【◎】 ・企業就労人数5人。 【○】 ウ ・3年生39名全員の進路が決定した。 ・今年度新規開拓したすべての企業が、フロンティア生以外でも就労や実習を受け入れている。 【○】
	(3)地域への関わり・健康維持への取組みを推進 ア 校外ボランティア活動の実施 イ 余暇活動・健康維持につながる取組み	(3) ア ・校外ボランティア活動を企画し、実施する イ ・中学部と連携して課外クラブを運営し、活動をさらに活性化する。	(3) ア ・フロンティアコース生による駅の清掃など、具体的な活動を各学年年間2回実施する。 イ ・部員が増加する。目標：23人 R3年3月の部員数18人 ・中学部からの見学者などを受け入れて活動する新たな体制を作る。	ア ・学校周辺の道路の清掃、河内山本駅周辺の清掃、PTAと共同して行った花壇の整備、グラウンドの凹凸を修復する整備、雑草の処理など各学年2回、校内外のボランティア活動を実施した。 【○】 イ ・部員は17人と増加させることはできなかったが、卒業生のクラブと合同練習を行うことにより部員不足を補い充実した活動を行うことができた。 【○】 ・12月8日、13日の2回、中学部生のクラブ体験会を実施しのべ12名が参加した。 【○】 ・3年生有志が大阪府高等学校芸術文化祭「開会行事」でダンスの発表を行うことができた。 【○】

府立八尾支援学校（高等部）

3 安全 安心で 活力あ ふれる 組織及 び学校 作り	（１）生徒の安全・安心を守る体制を構築 ア 新型コロナウイルス感染症対応	（１） ア ・学校において新型コロナウイルス感染症への感染が確認された際に適切に対応できる体制を構築する。	（１） ア ・高等部内で、連絡体制の再確認、該当者の行動履歴の迅速化、職場体験実習中の対応、自主通学への対応になどついて検証・記録し、マニュアル化を検討する。	ア ・５月、１月に新型コロナウイルス感染症への感染が確認されたが、予め申し合わせていた通り保健所等とも連携し、スムーズに対応することができた。職場体験実習中の対応は、各施設等に電話で個別に連絡し対応について確認した。自主通学生の対応については既存のマニュアルに追記を行った。【○】
	イ 危機管理体制の強化	イ ・昨年度実施した職員実働防災訓練での課題を改善する。 ・防災関連マニュアルを見直し、それに沿った訓練を実施する。	イ ・課題に対応して、関連マニュアルの改訂を完了する。 ・高等部が参加する各種防災訓練を８回以上実施する。	イ ・「児童生徒搜索マニュアル」「危機管理マニュアル」「学校防災マニュアル」について、各種訓練の反省を反映させて修正・追記などを行った。【○】 ・バス避難訓練、火災避難訓練、教員防犯訓練、児童生徒搜索訓練、職員実働防災訓練、地震避難訓練、不審者避難訓練、引き渡し訓練の８回の訓練を実施した。職員実働防災訓練は外部講師を招いて実施することができた。【○】
	（２）人権尊重の教育の推進 ア 人権侵害を許さない学校体制づくり	（２） ア ・教職員の人権感覚を高める。 ・人権委員会を定期的に開催する。 ・人権ポストへの投書に対して迅速に対応する。	（２） ア ・職員人権研修を年１回実施する。 ・人権委員会を月１回開催する。 ・投書から３日以内に臨時人権委員かを開催し、対応する。	ア ・４月に「アンガーマネジメントについて」、１０月に「同和問題・職業観と歴史について」、１月に「学校における情報モラル教育」のテーマで年間３回実施した。【○】 ・月１回、定例で人権委員会を開催した。 ・年間３０通の投書があったが、すべて即日に臨時人権委員会を開催し、適切に対応した。【◎】
	（３）生徒に関わる時間の増加 ア 会議や業務の効率化	（３） ア ・業務効率化のアイデアや、業務改善につながる課題提起を募集する。	（３） ア ・高等部教員全員から業務効率化のアイデア提案や課題提起が１人１件以上提出される。その中から、３件以上の業務改善を実施する。	ア ・高等部教員から６件の提案があり、その中から「電話対応の合理化」「グループウェアを活用した会議の効率化」について業務改善を実施することができた。「校務処理システムの活用」については検討中である。【△】